

今こそ企業家精神あふれる経営の実践を

～ 「三面鏡経営」と「5つのジャパン・ニューディール」の推進による「未来価値創造型CSR」の展開～

問題意識

時代の大きな節目

- ・米国のサブプライムローン問題に端を発した世界的な金融危機が実体経済の混乱を招くなか、社会の価値観や企業のあり方が変化
- ・世界的な景気後退の影響により、外需頼みの景気回復はしばらく期待できない上、将来への不安もあって消費マインドが落ち込み、個人消費を中心とした内需主導の景気回復は難しく、負のスパイラルに陥る懸念
- 短期利益志向の行き過ぎ
- ・現下の金融危機は、短期利益志向の行き過ぎが一因と言われているが、これまで多くの経営者が資本市場の動向に影響を受け過ぎた面は否めない
- 中産階級の二極化
- ・バブル崩壊以降、経営の軸足の置き方や就労構造が激変した結果、中産階級が二極化傾向 高度成長期の「好循環」が崩壊の危機

企業活動を行う上で、基準となるメジャーが曖昧になっている
 持続可能な企業として発展していくためには、目先の利益や株主配当といった足下の「数字」よりも大切な「精神」（経営哲学、理念、倫理）があるはず

「好循環型社会」の実現が、健全で持続可能な日本社会の構築につながる

- ・「5つのジャパン・ニューディール」の実践

新たな事業創造	雇用創出	新たな価値創造
収益向上	労働生産性向上	競争力向上
適正な利益配分	従業員の生活向上(物心ともに)	
層の厚い中産階級	安定した社会	さらなる企業の成長



企業家精神

経営者が企業の存在意義の根底にある企業家精神を持って社会的な課題に向き合い、新たな価値創造につながる事業を興し、市場や雇用を生み出すことが本質的な社会的責任

三面鏡経営

「資本市場(株主)」「従業員(雇用)」「社会」という三つの価値に焦点をあて、これらの価値に対して自らの行動を常に照らし合わせ、中長期的視点から価値を創造する経営

未来価値創造型CSR - 5つのジャパン・ニューディール

- 少子高齢化社会を持続可能で住みやすい社会へと導く
「オレンジ・ニューディール」
- 環境で世界のリーダーを目指す「グリーン・ニューディール」
- 日本の技術を結集し水ビジネス大国を目指す
「ブルー・ニューディール」
- 食の安全を守り食料自給率を向上させる
「イエロー・ニューディール」
- ICT社会の構築で様々な社会的課題の解決につなげる
「ホワイト・ニューディール」

我々経営者は、CSRを企業経営に関わる全ての事業の根源と位置付け、「三面鏡経営」を土台とし、企業家精神を持って「未来価値創造型CSR」を実践することで、企業の成長や競争力の強化につなげるとともに、社会的課題に対し政府と共に立ち向かうことにより、経済危機からいち早く脱却し、持続可能な「新たな日本」を築くことができるのであり、ひいては「新・日本流経営」に結びつくのである